

桜の聖母短期大学

親と子の広場

小さなクラスの

さくらっこだより

火・金曜日

12月号

小さなクラスのさくらっこが始まって、お互いが打ち解けあってきた11月。2・3歳の子ども同士がお互いを意識してかわり合う姿も見られるようになりました。

1歳未満の赤ちゃんたちは、会うたびに表情が豊かになり、それぞれ好みの遊び方やあやし方があることに気づかせてくれます。「あー」「うー」と声を出し、様々な要求を私たちに伝えてくれます。学生も必死に「これ欲しいの?」「何?」「立って欲しいの?」と赤ちゃんの気持ちを汲み取ろうとしています。また、足にぐんと力を入れて身体をしっかりと伸ばし、首も関節も強く支えられるようになり、身体も心もよりしっかりよりになってくる姿を日々見せていただいています。

この素晴らしい時間を共有させていただいていること、そして学生に貴重な体験をさせていただいていることに、感謝の気持ちでいっぱいです。

12月、子ども達はどんなクリスマスをお過ごしでしょうか・・・



力
豊
そ
謝

幼児にとって“甘え”は食事と一緒に

子育て相談をしていますと、落ち着きがない、排泄の自立ができていない、朝の洗面、着替え、食事がすべてグズグズしている、指しゃぶりがひどいといった相談が年々増えているように思います。それらの相談のほとんどが甘えが足りていないために起こっています。

お母さんは子どもを愛しているつもりなのでしょうが、子どもは愛されていることに確信が持てていないのです。

おねしょもグズグズも教室で動き回るのも乱暴な行動も、体での甘えを十分に受け入れてもらうこと、つまりあふれるまで愛をそそがれることによって驚くほど短期間でよくなります。

「甘えさせてください。他には方法はありません」とお話しすると、どのお母様も「えっ、甘やかしていいんですか」と意外な顔をされます。

そう、ここに勘違いがあるのです。

“甘え”は“甘やかし”とは全く違うものです。

子どもは寂しいときやつらいとき、つまり心が不安定なときにお母さんに体で甘えて心を安定させようとします。心の安定は子どもが成長発達していくのに欠かせません。子どもが体での甘えを求めるのは、それが食べたり飲んだりするのと同じように必要だからです。ですから、体での甘えは十分に受け入れてあげるといいのです。

甘やかしは子どもの言いなりになったり、子どもが求めてもいないのに先回りして物を買って与えたり、困らないようにやってあげたりすることです。

「あふれるまで愛を注ぐ6歳までの子育て」より

本吉圓子著 カンゼン



Sくん(5ヶ月)は、3歳のAくんが電車を長くつなげている様子をじっと見えています。異年齢の中で「見て真似る」ということはとても大事。興味を示していたら、近くに連れて行ってあげましょう。

Aお兄さん、 見せてくれてありがとう。

Mちゃん(1歳5ヶ月)は、探索活動真っ只中!! テクテク歩いて、あれもこれも触って試しています。この行動力お母さんにたくさん愛されて「心の基が出来ている証拠! 何があってもお母さんが受け止めてくれるから大丈夫とい



動
こ
は、
地」
さ
う

安心感があるからです。この時期は、いたずら
る環境を用意してあげると夢中になって遊び

出来
ます。



Aくん(3歳)のお母さんは、いつもやさしくAくんを見守っています。子どもに無理せず、Aくんの意思を尊重しています。流石です。

子どもを一人の人間として尊重するその見守りが、このAくんの集中につなが

っています。

見てください。

この真剣な表情!



Aくん(3歳)は車が大好き!

いつも故障した車をレッカー車で修理工場まで運んでくれます。今日はお母さんがブロックで修理工場(写真上)を作ってくれました。修理工場では、Aくんがタイヤ交換をしてくれます。

連結した汽車(写真下)は、学生が

作ってくれました。Aくん大満足!

この頃は、イメージの世界で遊ぶのが大好き。大人もその気になって一緒に楽しめるの良いですね。



Hくん(2歳8ヶ月)は、たくさん立っている柱を大きなボールで次々と倒して行くのが大得意! 柱が倒れる度に、目を丸くして声を挙げて驚く学生のリアクションが面白いようです。それに気づいた学生は、更に大胆に驚きます。部屋中笑いに包まれました。大人が表情豊かに反応すると、子どもは益々張り切るようです!



Fちゃん(6ヶ月)は、音



楽が大好きということをお母さんが教えてくれました。お

母さんお勧めの「キラキラ星」を歌って身体を揺らしてみると、Fちゃんはニコニコ！自分でも足にぐんと力を入れて踏ん張ります。今日は、紅葉がきれいな窓辺で歌を歌いました。

その後、ミルクを作って飲ませる場面を見せていただきました。学生は貴重な体験をさせていただきました。

Sくん（3歳）が、Hくん（2歳8ヶ月）がレゴブロックで遊んでいるところに近づいて行きました。お互い意識しています。学生がうまく間をつなぎながら、遊びのイメージを共有していきました。

親との1対1の関わりに満足し満たされる毎日を送っていると、自然に同じくらいの年齢の友だちに関心が向く3歳頃。この自然な育ちを見ると、3歳から子ども集団（幼稚園）を体験させる意味がよくわかりますね。



Hくん（2歳8ヶ月）が、しばらく夢中になって遊んだ「木の積み木」。ヒノキの香りがぱ〜んと漂い、大人も癒されます。

今日は、積み上げたり、積み木同士を打ち合う音を楽しんだりしていました。Hくんは積み木を積み上げた後ろにレゴブロックの人形をかくれんぼさせました。それに対して、大人は、あちらこちらの方向から人形の顔を覗かせて遊びました。



はさみ



はさみを使い始めるには丁度良い時期に、Sくんは興味を持って「はさみ」を手に入れました。右利きということも確認しました。（左利きの場合は、左利き用

のはさみをご準備ください）。使い始めは、はさみを連続して開いたり閉じたりして長い距離を切るのは無理なので、幅の狭い紙を用意しました。「チョコキン」と一回切ると切れてしまうくらいの幅です。はさみの持ち方を見ると、刃先が自分に向く向きで穴に指を入れてあります。出来れば初めに正しい持ち方を教えてあげたいと思い、持ち直すように話してみましたが、本人は嫌がりました。しかし、何度かはさみで遊んでいるうちに、どのように持つのが一番切りやすいか体験から感じたようで、はさみを使った遊び3回目くらいで正しい持ち方になりました。

常に目を離さず見守ってくれたお母さん。しかし、少し手を切ってしまったこともありましたが。それでもおおらかにはさみで遊ばせてくれたお母さんは、いつも1番の遊び相手でした。細長い紙の上に人形を置いて、Sくんがはさみで紙を切ると「きゃ〜」と落ちてしまう遊びです。

はさみ遊びも何度目か、今日は絵の得意なお母さんが「あっ、そうだ！」と、おいそいな食べ物絵を何枚も描いて「半分に切って！一緒に食べよう」とSくんを誘いました。みかんにハム、はさみを開いたり閉じたり上手に切って半分に、大好きなお母さんと「いただきまーす」「おいしかった。Sありがとう」とお母さん。子どもが切りたくなるような遊びを考え、提案できるお母さん、素敵ですね。



今回はコピー用紙でした。はじめはコピー用紙よりも厚く、画用紙よりも薄いものが切りやすいようです。新聞折込広告のおいそいなもの、カッコいい車などを切り抜く遊びも楽しそうですね。



11月に読んだ絵本



はじめてのおもちゃ絵本（6巻）より

- 1 おくちぱくぱく あそぼ
- 3 くるまをくるくる ブーブーブー

出版社：学研



だるまさんの
作：かがくいひろし
出版社:ブロンズ新社



きんぎょがにげた
作：五味太郎
出版社:福音館書店

お母さんが添い寝して絵本を読んであげています。

カラフルな色と優しい声に引き付けられて、じーっと絵本に見入っていますね。

何て幸せな時間なのでしょう。



学生も読み聞かせに挑戦です。

親と子の広場にいつも参加している学生のMさんは、とても優しい声です。

この他、抱いて読んであげたり、隣に寄り添って読んであげたり、スキンシップを取りながら、絵本の時間を楽しみました。

